

中・高等学校教材研究

被服領域における実験的教材の工夫と活用

— 見る・確かめる・生活に生かす —

科学技術教育部 大平 晴 美

はじめに

実践的・体験的学習を通して学ぶ家庭科では、基礎的知識・技術の定着を図るために実験・実習は欠かせないものである。

被服領域においては、製作実習を中心として衣生活の知識・技術の習得が図られるよう指導要領にも示されている。しかし、この領域の中の被服材料・被服管理では、それらの内容の特質から、知識を深める理論的な学習に偏り、生徒の関心も低くなりがちである。

そこで、この理論的分野に、興味と関心をもたせ、自ら学習する意欲を喚起させるとともに、実践的確かめとして実験を導入した授業が展開できるなら、基礎的知識の理解もより深まり、発展性のある学習成果が期待できるものと思われる。このことから、次のような実験を通して教材の工夫を試みた。以下その内容について述べてみたい。

1 布の成り立ちを学ぶ教材・教具

この教材は身の周りの被服材料（繊維・糸・布）を知るとともに、布のできる過程を理解させ、製作を通して織物の基礎的知識と技能の習得ができる。

- (1) 糸・布を観察し分解する。(ルーペ等)
- (2) 織物の組織を調べる。

<材料>色紙・はさみ・のり

<方法>① 色紙(濃色)をたんざくに切り番号をつける。これを、たて糸とする

＝ 平織の場合 ＝

○よこ糸を奇数番号のたて糸の下に入れ上方に詰める。次に偶数番号の下に入れて上方に詰める。このくり返し。(写真⑦)

＝ 斜文織の場合 ＝

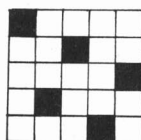
○写真④のようによこ糸をA(1・4・7)

の下に入れる。次はB(2・5・8)の

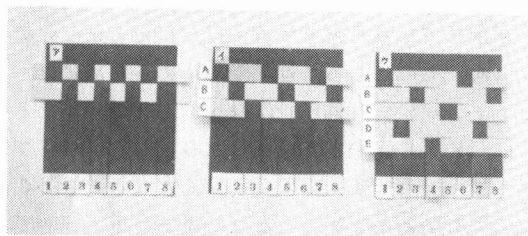


下に、次はC(3・6)の下に入れる。このくり返し。A→B→Cだと右上がり↗, A→C→Bだと右下がり↘の斜め方向の線ができる。

＝ 朱子織の場合 ＝



○写真②のようにA(1・6)→B(3・8)→C(5)→D(2・7)→E(4)の順によこ糸を入れる。このくり返し。



平織(写真⑦) 斜文織(写真④) 朱子織(写真②)

- (3) 織る…(応用) 作品づくり〔しおり、コースターなど〕

材料 厚紙又は空箱(厚手), はさみ又はカッター, 毛糸, 毛糸針

方法 ① 厚紙に深さ1cm, 間隔0.5cmの切り込みを入れる。

② 毛糸をきざみの間にひっかけて、たて糸を張る。

③ よこ糸をたて糸の間に交互に通す。よこ糸をつめながらくり返す。

※ よこ糸を引っぱりすぎると真中が縮むので注意

④ 端までいったら厚紙からはさみずして、フリジグ等で飾りつける。

